

龍りゅう 神じん 祝のり 詞と

高天原たかまがはらに坐まし坐まして天てんと地ちに御働みはたらきを現あらはし給たまう

龍王りゅうおうは大宇宙根元だいうちゅうこんげんの御祖みおやの御使みつかいにして

一切いっさいを産うみ一切いっさいを育そだて萬物よろづものを御支配ごしはいあらせ給たまう

王神おうじんなれば一二三四五六七八九十の十種とくさの

御寶みたからを己おのがすがたと變へんじ給たまいて自在自由じざいじゆうに

天界地界人界てんかいちかいじんかいを治おさめ給たまう龍王神りゅうおうじんなるを尊とうとみ

敬うやまいて真まことの六根一筋むねひとすじに御仕みつかえ申もうすことの由よしを

受うけひ引き給たまいて愚おろかなる心こころの数々かずかずを戒いましめ給たまいて

一切衆生いっさいしゅじょうの罪穢つみけがれの衣ころもを脱ぬぎ去さらしめ給たまいて

萬物よろづものの病災やまひをも立所たちどころに被はらい清きよめ給たまい萬世界よろづせかいも

御祖みおやのもとに治おさめせしめ給たまへと祈願こひねがいたまつ奉たる

ことの由よしをきこしめして六根むねのうちねんに念もじ申もおす

大願たいがんを成就じょうじゆなさしめ給たまへと恐かしこみ恐かしこみ白もおす